



セミはどうして(あんなにうるさく)鳴くの

メスに、い場所を知らせて鳴く

セミは、オスもメスも、おなかの^{した}下の^{ほう}方に、音を^{おと}聞く^きしくみをもっています。でも、^な鳴くのはオスだけです。

セミのオスが^な鳴くのは、メスに「ここにオスが^しいるよ」と知らせるためです。セミは、^{つち}土の中^{なか}です。幼虫^{ようちゆうじだい}時代は長いけれど、おとなになったら、10日~2週間^{しゅうかん}しか生きられません。大急ぎ^{おおいそ}でメスを探して、^{さが}卵^{たまご}を産んでもらわなければならないのです。だから、あんなに^ないっしょうけんめい、うるさく鳴くのです。

セミは種類によって、鳴く時刻がちがう

同じ^{おな}ような^{ところ}所にいるセミは、おたがいに^な鳴く^{じこく}時刻がちがっていて、ほかの^{しゅるい}種類のセミとぶつからないようになって^{おほ}いることが多いものです。たとえば、朝^{あさ}や夕方^{ゆうがた}鳴くのが、ヒグラシ、午前^{ごぜん}中^{ちゆう}鳴くのがクマゼミ、昼間^{ひるま}鳴くのがミンミンゼミです。

鳴いてすぐ飛ぶセミ、そのまま鳴き続けるセミ

セミの^{しゅるい}種類によって、^な鳴き^{つづ}続けてメスをよぶタイプと、^な鳴いてオスが^しいることを知らせるだけで、すぐ、メスを探^{さが}しに、^と飛んでいってしまうタイプがあるようです。

アブラゼミやニイニイゼミは、いつまでも^{うご}動かないで鳴いています。ミンミンゼミやツクツクボウシなどは、^な鳴いたあと、すぐ^と飛んでいってしまいます。(監修・中山 周平)

